民生委員が改選されました

令和4年12月1日付けで全国一斉に民生委員、主任児童委員の改選が行われた。

山辺地区では15名のベテラン委員が退任、新たに17名が選任され、41名の陣容で令和7年11月30日までの任期で地域のお困り事等の相談窓口を務めることとなります。各町内の民生委員・児童委員は次の方々です。

八幡1長内孝江・堀野久美子、八幡2海老澤寿子・菊地美穂、八幡3荻野浩子・柴崎眞子、八幡4加藤哲男、八幡5市原初枝、前田賢一、八幡6植竹裕、借宿1徳井範子、借宿2澤口くみ子、借宿3阿久田操子、借宿4倉林喜代子、中川石島みよ子・齋藤恵子、西新井須永嘉子・佐藤由美子、滝宮川島伸彦、堀込1茂木文江・後藤能江・宮沢秀喜、堀込2千葉悦雄・中村ゆき江・萩原恵美子・岩佐あつ子、朝倉1丸山奈穂子・吉田満、朝倉2家泉ユキエ・田中幸子、朝倉3邉見泰子・尾崎雅治、田中1玉井祥三、田中2三田美江子、大根田和男、田中3田部井久代、田中4田部井恵子

主任児童委員、上岡恵子・冨福百子・長島文江・山同眞理子

どうぞ宜しくお願い致します。

民生委員を退任して

貴重な時間だったと

借宿町　梅澤すみ代

民生委員を受けた時に最初に感じた事は、他人の生活をどれ程受け入れられるだろうかと、とても心配でした。

長い間一人暮らしをしている方達の毎日がどれ程のものか、ある時は早朝から、ある時は夜遅く、当たり前の様に呼び出しの電話が来ました。慣れない自分にはとても辛かったです。

耳の聞こえない人には画用紙にマジックで書いて対応し、足の悪い人は車に乗せて動きました。

そんな方達も年を重ねる毎に少しずつ心を開いてくれて、最後は包括の方々のお世話になって施設に入居していきました。亡くなった時には連絡があり、お別れに行く事も多かったです。

身軽に動けて少しは人様のお役に立てたかと思えるこの12年間は、私の人生においてとても貴重な時間だったと思えます。

受け入れて頂けた地域の皆様、支えて頂けた関係する方々や仲間の皆様に、心より御礼申し上げます。

民生委員を退任して

大切な出会いと経験が

中川町　柳澤　猛

昨年の一斉改選により4期12年の民生・児童委員を退任致しました。民生・児童委員の役割や活動等何も分からずに安易に引き受けましたが、沢山の人との出会いや民生・児童委員でなければ体験することが出来ない色々な施設等の研修・見学等貴重な経験をさせて頂きました。

担当地区には500以上の戸数があり、誰が何処の人なのか殆ど分からない状態でしたが、地域の状況を少しは理解できるようになってきたのも、安心キット配布、友愛訪問、一人暮らし高齢者台帳登録等の訪問活動によるものが大と感じています。

民生・児童委員になった年に3.11の大震災を経験しました。幸い担当地区には殆ど被害が無く安心しましたが、民生・児童委員の研修旅行として被災地を訪問し直接被災体験者から生の声を聴けたことは忘れ難い記憶として残っています。又、コロナ前は毎年親睦旅行や親睦忘年会が催されてきたことも楽しい思い出です。

活動を通して感謝されることも多かったですが、なにより沢山の出会いや貴重な経験をさせて頂けたことで、民生・児童委員に任命されたことを本当に有難かったと感謝しています。

救急安心キットとは

あなたの詳細を知らずに救急に駆けつけてくれる救急隊員に、隊員が知りたい事項(緊急連絡先、持病、掛りつけ医、飲んでる薬等)を的確に伝えてくれる魔法の筒がこの安心キット。独居高齢者の必需品です。未設置の方、ご希望の方は公民館窓口でご相談下さい。

堀込二で防災訓練実施

10月30日、消防関係者含め、総勢130の参加で公民館と多目的広場にて開催。会長挨拶、堀込分署所長挨拶、消防南分署長訓示等、更に第5分団員と堀二女性防火隊員の紹介も行われた。

式典後、市消防署が誇るシグマ型ハシゴ車の実演見学。H19年設置、最高25m迄伸びる梯子、先端バケットの署員の姿が青空に溶け込みそう。

参加者は3班に分かれて「初期消火」「AED等救護法」「担架搬送」の訓練に。家庭での応用が可能なように設定と説明が構成されている。

ハシゴ車実演。高層ビル火災に威力発揮

隣組長を主体に参集を呼びかけたが、若い女性の参加が目立ち、心強かった。

山砂で土嚢作りの実演中。1つ10kgとか。

山辺合同の防災訓練も

―自治連主催―

市消防署・市危機管理課の指導の下に、7年ぶりとなる地区合同防災訓練が11月20日、山辺自治連主催で南小体育館内外にて行われた。

コロナ禍でもあり、各町内防災会役員のみの参加に絞り、計120名の参加で、4班に分かれハザードマップ講習、避難所開設、避難所用資機材、土嚢作成の訓練が順繰りに行われた。

やさしさがわいてくる講演会

―ごちゃまぜの地域づくり―

えんがお代表　濱野将行氏

足利全地区に地区社協が結成されて30年、この記念事業の講演会として11月26日プラザ大ホールにて挙行された。

濱野氏31才。学生時代から高齢者との交流の場づくりを進め高齢者の孤立化の現実に直面、解決に繋ぐ地域の仕組みとして「えんがお」を設立。現在7軒の空き家を活用し高齢者、子供、学生、障がい者等すべての人々が日常的に関われるごちゃまぜの地域づくりを実践している。

90分程の講演であったが、孤立化が進む社会の中で「困った時に助けてくれる人の存在のありがたさ」を日常生活の中に実感できる場を、実際に生み出し、作り上げてきている事を目の当たりに示してくれた。

多くの試行錯誤を経て辿り着いた現在なのだろうが、「異なる価値観の視点のぶつかりあいの中から新たな現象、価値観が創造されてきた」とさりげなく語りながら紹介する事例は感動的で意義深いものばかりであった。

一、三紹介する。

一、空き家利用で1階高齢者サロン、2階学生勉強室。おやつ等で交流が生まれ、今や地域、広域の見守りネットワークのベースになった。

二、独居で「早く楽に往きたい」と言っていた方の家を、高齢者と子供の交流の場として借り上げ、管理を頼んだところ交流のキーマンとなり、書道で「長生きしたい」と大書するまでに。

三、障がい者のグループホーム。料理が趣味のおばさんに面倒見て貰う。やがて障害女児がおばさんにスマホを教えている場が。

濱野氏は「ごちゃまぜ」の効果を次の様に語っている。

「ごちゃまぜ交流していると期せずして不思議な現象が生まれる。お互いに得意な事で相手に貢献しようとする。尽くそうとする。思いやり・やさしさが生まれる。分断していると『できない』ことが前面に出て離反してしまう。」